

岩手県金融経済概況（2019年10月）

1. 概況

県内経済は、生産面の一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は、消費税率引き上げなどの影響による振れを伴いつつも、底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少している。住宅投資、設備投資は横ばい圏内の動きとなっている。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年と同水準となった。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、消費税率引き上げなどの影響による振れを伴いつつも、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2019年9月）は、2ヵ月連続で前年を上回った（前年比+17.0%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2019年9月）は、2ヵ月連続で前年を上回った（前年比+3.9%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2019年10月）は、4ヵ月振りに前年を下回った（前年比△22.7%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2019年10月）は、3ヵ月振りに前年を上回った（前年

比+30.8%)。

新設住宅着工戸数（2019年9月）は、3ヵ月振りに前年を上回った（前年比+26.2%）。

—— 持家（前年比△8.2%）は3ヵ月連続で前年を下回った。貸家（同+64.2%）は3ヵ月振りに前年を上回った。分譲（同+74.2%）は2ヵ月連続で前年を上回った。

民間設備投資（2019年9月短観ベース；2019年度計画）は、前年を僅かに下回る計画（前年比△0.5%）となっている。

—— 製造業は、一部に投資額を下方修正する先がみられたことなどから、前年を僅かに下回る計画（前年比△0.6%）となっている。非製造業では、一部に設備老朽化対応投資を追加する動きがみられたものの、全体では前年を僅かに下回る計画（同△0.3%）となっている。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2019年9月）は、7ヵ月連続で前年を下回った（前年比△16.5%）。

3. 生産動向

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2019年8月）は、2ヵ月振りに前月を下回った（前月比△1.7%）。

—— 主要業種別にみると、はん用機械、食料品、窯業・土石製品が上昇した一方、電子部品・デバイス、輸送機械、鉄鋼が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2019/4～6月は2期振りに前期比増となった（2018/7～9月：前期比△0.3%、10～12月：同+1.3%、2019/1～3月：同△7.1%、4～6月：同+1.2%）。

4. 雇用・所得動向

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2019年9月）は、1.37倍と2ヵ月振りに前月を下回った（2013年5月以降77ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2019年9月）は、2ヵ月振りに前年を上回った（前年比+0.1%）。

雇用者所得（県内合計値；2019年8月）は、名目賃金指数（前年比+0.7%）が前年を上回ったものの、常用雇用指数（同△1.4%）が前年を下回ったため、3ヵ月連続で前年を下回った（同△0.8%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2019年9月）は、交通・通信、光熱・水道が下落した一方、家具・家事用品、諸雑費（理美容サービス、たばこ等）、住居（設備修繕・維持）が上昇したことから、全体では前年同月と同水準となった（前年比0.0%＜2016年12月以来の低い伸び＞）。

6. 企業倒産

企業倒産（2019年10月）は、4件、74百万円（前年同月；2件、125百万円）と、引き続き低水準となっている。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2019年9月）については、預金、貸出とも前年を上回った。貸出約定平均金利（2019年8月）は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>